

いわちゃん ポスト

岩井やすのりの県政かわら版

千葉県議会議員



1970 年 (昭和 45 年) 生まれ 県立君津高卒
専修大卒、早稲田大大学院 政治学研究科修了

事務所連絡先 Fax: **0476-36-7802**

HP: <http://www.iwai-y.jp> メール: mail@iwai-y.jp

印旛郡栄町安食台 2-26-23 (栄町役場前大山ビル 2F)



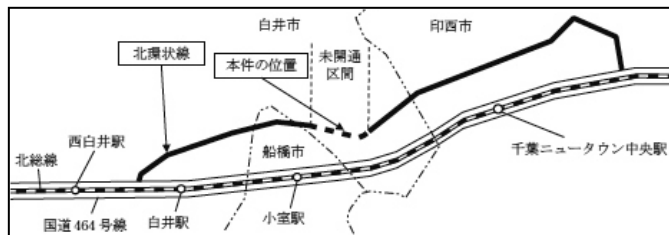
blog



facebook

廃棄物撤去費9回目の予算計上 **北環状線問題**

道路予定地の不法占有により、8年以上も工事が停止している千葉ニュータウン北環状線。6年度県予算では、同地の廃棄物撤去費用として 20 億円近くが計上されたものの、工事再開の目途は全く立っていません。



●不法占有者に2億9千万円もの補償支払い

問題となっているのは白井市清戸の未着工区間。昭和 40 年代、県企業庁が取得した道路用地に廃棄物が投棄され、加えてその廃棄物の上に事務所等を設置したA社が不法占有を続けました。

当時、県はA社に対する法的対応について検討したものの、裁判での解決に時間を要し工事完了に遅れが出るとして断念。平成 24 年にURは道路地物件移転補償などとして計 2 億 8900 万円を支払い、一度は道路着工に至っています。ところが、廃棄物の撤去作業による振動が激しいとして、さらなる高額な補償を求められ、平成 27 年以降、8 年以上にわたって工事がストップしたままとなっているのです。

●廃棄物撤去費予算計上は「毎年の恒例行事」

ところで、この 2 月県議会に提出された 6 年度当初予算案では、北環状線廃棄物処理委託費用として 19 億 7900 万円が計上されています。いよいよ廃棄物撤去に着手かとの期待の声も上がったと



ころですが、実はこれ、A社との交渉が進展した場合に迅速対応できるようにと毎年予算計上されているもの。翌年 2 月議会にて同額を減額補正することが続いており、今回で 9 回目の計上です。

●相手方が求める補償額 国基準と大きな開き

では、URとA社との直近の交渉状況はどうなっているのか。

平成 27 年以降、しばらく補償交渉が続けられたものの合意には至らず。平成 29 年にURより提起された債務不存在確認訴訟が翌年却下された一方、平成 31 年にA社より起こされた調停もその日一日で不成立となっています。令和 4 年にはA社がURを相手取って提訴していますが、今年度に入ってからその訴えは棄却されています。

合意に至らない原因は補償金額の開きです。こうした公共補償については国の基準があり、今回UR側が支払うことができるのはざっくり 1 億円程度。対して相手方はそれを大きく超える補償を求めているとされ、到底合意できる状況にありません。早期開通を求める声は多く聞かれますが、解決までの道のりは見出せない状況です。

公立中学校の成績評価にばらつき 入試結果に影響

千葉県内の公立中学校の間で、5段階評価の成績分布にばらつきが発生している問題。高校入試における合否判定に直結するだけに、早期の対策が求められます。

●合否判定における評価の割合は 10～30%

2月県議会にてこの問題を取り上げたのは、成田市選出の雨宮議員（無所属）。県教育委員会が2023年度に公表した学校別の成績分布によると、同じ地域でも「美術」で中学3年全員に「5」をつける学校がある一方、「5」が全体の4%にとどまる学校もあったと言います。

千葉県の公立高入試では、中学1年から3年までの9教科の成績を5段階評価した点数の合計に、各校で定める係数を乗じた評価を算定しています。その上で学力検査の得点、点数化された部活動の成績などを合計し合否を判定。各校の総得点に占める評価の割合には差があるものの、10～30%ほどと無視できない数字です。

●際立って高い評価続く 成田市立C中学校

資料を取り寄せ、北総地区の公立中学校成績分布を精査してみた目についたのが、印西市の中央に位置するA中学校の評価の厳しさ。

例えば、23年度の音楽で5の評価が得た生徒は10.9%と特に少なく、同市立B中学校（42.1%）のわずか4分の1。その音楽の成績で1の評価となった生徒が14.5%もいたというのも異例のことです。その他の教科も軒並み厳しい評価で、同年のA中学校の9教科評価平均値は86（135点満点）。これは北総地区の全中学校72校中、最も低いものとなっています。

県公立高入試における内申の割合

学校名	学科	学力検査	係数K	内申※ (評価)	その他	総得点	総得点に占める内申の割合
我孫子	普	500	1	135	70	706	19.1%
我孫子東	普	500	2	270	150	922	29.3%
印旛明誠	普	500	1	135	80	716	18.9%
佐倉	普	500	0.5	67.5	30	598	11.3%
白井	普	500	1	135	150	786	17.2%
成田北	普	500	1	135	100	736	18.3%
東葛飾	普	500	0.5	67.5	100	668	10.1%

※中1～3年の9科成績を5段階評価した点数の合計に各校で定める係数を乗じたもの。（佐倉高の場合、 $5 \times 9(\text{科}) \times 3 \times 0.5(K) = 67.5$ ）

一方で、23年度の成田市立C中学校の評価平均値103は72校中2番目に高い数値。5の評価を得た生徒は、音楽53.4%、数学46.6%、社会39.7%などと一様に多く、反対に1の評価となったのは保健体育で1人のみでした。同校は22年度が101、21年度が100（いずれも72校中2番目）と際立って高い成績評価が続いています。

●新たな評価補正の導入で「評価格差」是正を

この成績分布のばらつきについてはかねてより懸念があったところ。以前は評価平均の基準値を「95」に定め、例えば平均値が「90」となった中学校について、全生徒の評価に「5」を足すという補正措置を行っていました。県教委は学校や地域の格差が縮まったとして、21年度以降取りやめていますが、未だ看過しがたい「評価格差」が生じているのは間違いありません。

公平評価のための研修の強化はもちろん、新たな評価補正についての検討が求められます。

